

秋山智孝先生の古稀寿を迎えて

本学園高等学校長、本学教授秋山先生は、今年満七十歳の古稀寿をむかえられましたので同学・後学の諸先生が相集い、相議して本学機関紙「棲神」六十五号を先生の古稀記念号として出版し、ささやかながら先生の学恩の一端の報恩に擬し感謝の微衷に資し奉りたいと、先生縁故の諸先生に記念論文の献呈をお願い申しあげたところ、賛同の論文を多数お寄せいただきました。関係者一同、あつく感謝申しあげている次第でございます。

先生の本学園御就任は昭和二十一年で、このころは大東亜戦の終戦時の混乱期で、先生の御追憶によるとその講義は英語・国漢・日本史の多岐にわたり、更に体操までうけ持たされ、陸軍中尉で原隊復帰をされた先生は軍隊式の体操で一時間をどうにかすませた、と笑っておられました。

加うるに当時、敗戦後の日本の経済情態は最悪で、食糧不足はいわずもがな、給料の遅配は普通、まごまごすると欠配も珍らしからぬ有様でした。食料不足ですから闇米を買い出しに出れば、経済警察が戦中の特高のように暴力をふるい、苦勞してかついできたわずかな米や野菜を没収する、我々は何もできずに涙をのむ、こうした四苦八苦の生活がつい先日のように思い出されますが、こうした生活の中に祖山学院から現在の短期大学になり、一千余の生徒を送って今日に至りました。

今、我々はこの伝統の上に更に四年制の大学へ改組転換して新時代に即応する教育体制をととのえ、四海帰妙の一翼たらんと日夜奮闘しています。

身延山総務、本学理事長藤井教雄先生は本学教職員並びに本山役員の先頭に立って勉勵指導され、昨年十月の本学同窓会総会では、四年制大学改組転換に全会一致、全面的援助を確約し、これを決議されました。

高等学校も本年中には新しく三階立ての新校舎が設立され、秋山先生は新校舎の初代校長として臨まれます。先生が壮者をしのぐ活力をもって更に新しい任務を遂行されますよう心よりお祈り申しあげます。

平成五年三月

宮 崎 英 修